

競い合うジュニア。人数の多い中で切磋琢磨できる環境は貴重だ。登竜門の大会が今年も開催された。

第21回ジュニアチャンピオン大会
2004年1月18日(日)
東京都八王子市 滝山城址 2004」



ジュニアの登竜門

1月18日、全国各地で大学入試センター試験が行われているころ、東京の滝山城址付近ではこの時期恒例のジュニアチャンピオン大会が開催されていた。

1978年に第一回が開催されて以来今年で21回目になるこの大会は、これまでも、数多くのジュニアの目標となってきた。その後エリートとして羽ばたいていった選手も多い。

長い間日本のトップを引っ張った高野由紀や村越真は、その第一回のチャンピオンである。また現在モナショナルチームで活躍中の田島利佳、鹿島田浩二も、同大会の優勝者である。

主催多摩オリエンテーリングクラブの意図通り、現在のオリエンテーリング界においても最も弱いジュニア層の普及に大きく貢献している。

今年は、467名の参加があった。男子チャンピオンは、桐朋高校1年の斉藤翔太が、目標通り獲得した。また女子のチャンピオンは3連覇をねらう渡邊久美と第一回チャンピオンの高野由紀の長女美春との一騎打ちとなったが、さすがに高校3年の渡邊に軍配があがった。

その他のクラスでも、桐朋、麻布、武相などの高校クラブからの参加も多く、盛況であった。

斉藤翔太 (MJE)

- 目標をジュニアチャンピオンにしていたね。実際の調整とか、当日のコンディションはよく、意図したとりのレースができたのでしょうか？

「そうですね。JC大会で優勝することは高校生になってからの目標の一つでしたので、実は気合を入れて元旦から走りました。

元旦から大体3日に1回休む程度に、1日5~10km走りました。休息もしっかり取っていたので、当日はかなり良いコンディションで走ることができました。

レースでは、小さなミスがいくつかあって、走り終わった後抜かされないか不安でしたが、結局2位と約5分差もつけることができたので、とてもうれしかったです。」

- 地図・コースについて一言お願いします。

「滝山城址は城址なのでなかなか地形が読みにくくて少し大変でした。また、かなり開けていて眺めが良かったので、走ってて気持ちよかったです。あと、コースは思っていたより簡単で、距離も短かったのが良かったです。

- これからの抱負をお願いします。2連覇とか？

「もちろん2連覇は狙っていきたいと思います。JC大会は名前が残るし、何より賞品がいいので個人的に1年間で最も重要視している大会です。また、もうすぐインターハイもあるので、そこでも団体戦、個人戦ともに優勝を狙っていきます。」

渡邊久美 (ひさみ) (WJE)

- レースはどうでしたか？

「楽しかったです。山を走るのが久しぶりでしたから。去年の夏くらいからやっていなかったの。会場もきれいだったし、地図もよくて、走りやすかった。」

- これまで2連覇ですよね。3連覇は意識したんですか？

「ええ、最後までちゃんと走りたいと思いました。」

- 特に、参加が2人だけで相手が中

学生だったので、やりにくかったのでは？

「はい。ちょっとプレッシャーでした。」

- 去年は久美さん1人、今年は2人でした。そのあたりはどう思います。

「やっぱり残念ですね。同じ女性として、こういう楽しみがあるっていうことは伝えたいと思うんですけど。話すだけではイメージがわかないみたいで...。それに(まわりの同学年に対して)この子たちにできるのかな、って私自身思ってしまった、誘ったことはありません。私は野生児ですから。」

久美さんは受験生、化学方面への大学進学が決まっている。

- 大学でのオリエンテーリングは？

「個人的には続けたいですね。学校自体にはクラブがないみたいですから。また化学だということで、学業の方も忙しいと思います。趣味の域として続けたいです。」

村越怜 (M15)

大会一週間前、家にプログラムが届きました。それを見て、すごく驚きました。去年のぼくのクラスは3人ほどだったのに、今回は18人だったからです。母に聞いたら東京の学校のクラブは強いと言ったので、緊張してきました。

こうして前日がきました。東京に行ったら雪が降ってました。静岡ではほとんど降らないので、すごくうれしかったです。当日、スタートにいくまで急な坂なので、あしが痛かった。それに優勝タイムが35分だったので、それより早く走れるか心配でした。

コースは思ったよりも簡単でした。まずポストの間隔が短いので、すぐに見つかります。さらに道に沿ってあるのでおもしろみに欠けます。もう少し森の中や山の上に置いた方がおもしろいと思いました。

そして順調にゴールにつけましたが、みんなもこれくらいではないかと思っていました。しかし意外に全員弱く、3位以下とは10分近く差がつかれました。

賞品のコンパスがかっこよくて良かったです。これで全日本への自信ができました。

(記事：村越 真)